

## 1. 準備

(製品名・機種型番等は、現時点でバイオバンクが採用しているものを提示している)

- 15 mL タンパク吸着制御滅菌V底遠心チューブ (個別包装) (ザルスタット)
- CSF フォルスボトムチューブ (ザルスタット)
- プロテオセーブ SS 1.5 mL スリムチューブ (住友ベークライト)



15 mLタンパク吸着制御  
滅菌V底遠心チューブ(個別包装)  
(ザルスタット)



CSFフォルスボトム  
チューブ  
(ザルスタット)  
※外注検査用チューブ



プロテオセーブSS  
1.5 mLスリムチューブ  
(住友ベークライト)  
※保管用チューブ

## 2. 採取

2-1. 15 mL タンパク吸着制御滅菌V底遠心チューブ (個別包装) に採取。

2-2. 冷蔵庫に一時保存 (保存時間は個別検体情報として記録)。

※副作用軽減のため採取には無傷針 (Atraumatic needle) を用いることを推奨する。

※研究用検体にはタンパク質低吸着チューブを推奨する。

※バイオバンクでは脳脊髄液の採取は担当しておりません。

※臨床検査部で一時冷蔵保存せずにバイオバンクに移送する場合もある。

## 3. 分離と分注

3-1. 保存している脳脊髄液をバイオバンクに移送 (on ice)。

3-2. 4℃で2,330~2,360×g、10分間遠心分離。

3-3. 検体番号ラベルを貼った保管用チューブ、外注検査用チューブ\*1に (500μL/tube) 分注。

\*1 βアミロイド1-42 / 1-40比、リン酸化タウ、総タウ蛋白

## 4. 保管

4-1. チューブは貯蔵ボックスに並べ、超低温 (-80℃) フリーザーで保管。

4-2. 検体管理システムに検体情報を入力。

- 採取～超低温 (-80℃) フリーザーでの保管は24時間以内に行う。
- 作業環境温度：室温 (12℃~28℃) で実施

詳細手順につきましては、下記までお問い合わせください。  
バイオバンク代表：biobank@ncgg.go.jp